

大強度陽子加速器施設 (J-PARC) (R5年度実施) 中間評価報告書の骨子 (案)

1. はじめに

「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」を踏まえ、前回中間評価(平成30年6月)からの5年間の取組状況について確認を行い、今後の施設運営の方向性を明らかにすることを目的に行ったもの。

2. 前回評価指摘事項に対する対応状況

前回評価への指摘事項に対する取組状況を確認したところ、概ね着実に対応がなされているが、以下の事項については課題が認められ、今後の対応が必要である。

- ・継続的かつ計画的な人員確保
- ・高放射化物の減容化に資する技術の獲得や老朽化・高経年化対策など安全かつ安定な施設運営
- ・施設の将来計画(青写真)の具体化と若手人材を惹きつけるための方策
- ・ユーザーの利便性の更なる向上とサイバーセキュリティのバランス
- ・施設の持続性に貢献する利用体系の整備や自己収入の獲得
- ・J-JOINなど中性子・ミュオン利用のプラットフォームの放射光への拡大
- ・一般国民向けも含めた効果的な施設の広報や国際連携

3. 新たな視点について

科学技術イノベーションを取り巻く環境変化や国際情勢等の変化を踏まえると、以下の点が重要であることが議論された。

- ・競争領域/非競争領域のデータポリシー検討も含む産業利用の拡大と社会実装実現への貢献
- ・物価高・燃油高騰への対応を踏まえた利用料収入の自己財源化

4. J-PARC 中間評価の結果について (作業部会からの提言)

- ・MLF-TS2等の将来計画の実現に向けた取組を具体的に進めること。その際、将来を担う若手に魅力的なビジョンを示すとともに、技術継承等の課題に対応するため計画的な人材登用を進めること。
- ・燃油高騰等を踏まえた利用料収入の自己財源化を含め施設運営の改善を図ること。あわせてユーザーの利便性の更なる向上を図ること。
- ・GX社会等戦略分野も含めて、産業界における中性子等利用の一般化を通じて社会実装例の創出につなげ、国民生活への還元を図ること。

5. おわりに

次回の中間評価は5年後となる2028年頃を予定。